

	10 月				11 月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本年	29.4	24.0	26.4	249.0	25.0	18.5	21.7	86.5
平年	27.5	22.0	24.6	176.6	23.0	17.6	20.3	160.0
平年との差	+ 1.9	+ 2.0	+ 1.8	+72.4	+ 2.0	+ 0.9	+ 1.4	- 73.5



年頭のご挨拶

生和糖業株式会社
代表取締役社長 金子 勇人



新年あけましておめでとうございます。

喜界島におけるさとうきびの生育は、昨年春から概ね良好となり、昨年12月18日より製糖を開始しております。農家の皆様には、年末及び新年早々からの刈り取り集荷作業となりますが、お体をご自愛のうえ計画的な工場搬入となります様によりしくお願い申し上げます。

当社は、喜界島の豊かな自然の中で基幹作物であるさとうきびを原料に製糖業を営むことで喜界町に永年に亘り貢献してまいりました。この間、喜界島を巡るさとうきび産業の環境も、気象条件の変化や人口減少やそれに伴う圃場作業の機械化など年々変化してまいりました。さとうきびの単収UPに向けて、土づくりや適期圃場管理作業が取り組み課題となっていますので関係各所との連携により当社も努力をしてまいります。また、喜界工場の設備については創業（昭和34年）以来の製造建屋の老朽更新や設備機器の効率化更新に努めて安全・安定操業を目指していますが、ハーベスタによる刈り取りが91%となり、（公財）喜界農業開発組合の運営による脱葉装置の処理能力不足、トラッシュ低減が新たな課題となり、関係各所と対応策の検討をしていく所存です。

今製糖期におけるさとうきび搬入数量は76,000トンで3月末の製糖終了と計画しており、安定した天候のもとで少しでも増加となりますことを期待し、当社工場においては、事故やトラブルのない操業となります様に努力していく所存です。

喜界町においても様々な農作物や、畜産などと共に発展していくことを望んでいますが、基幹作物であるさとうきびの増産にご協力いただき持続的な島の経済に貢献していく様に農家の皆様と共に努力したいと思います。それでは、今製糖期のさとうきび収穫から工場への搬入など皆様と一緒に連携してまいりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さとうきび生産振興大会(12/1)開催される

川島町長挨拶、来賓挨拶、大島、徳之島両支場の講師による講演。「キビ共済」についての説明終了後、弊社金子社長より操業計画がありました。

講演 「さとうきびの害虫」 大島支場

ハリガネムシ(コメツキ類幼虫の総称)奄美群島は2種類。
オキナワカンシャクシコメツキ(奄美大島、喜界島、徳之島)
サキシマカンシャクシコメツキ(沖永良部島、与論島)

株出栽培の大敵

原因 → 地下茎や根部を加害。特に芽子部分を好んで加害する。

結果 → 不発芽、不萌芽、分けつ茎数減少の原因。

1.これまでのハリガネムシに対する有効薬剤の探索と評価

プリンスベイト

ハリガネムシ類に対し長期間抑制効果が期待できる。

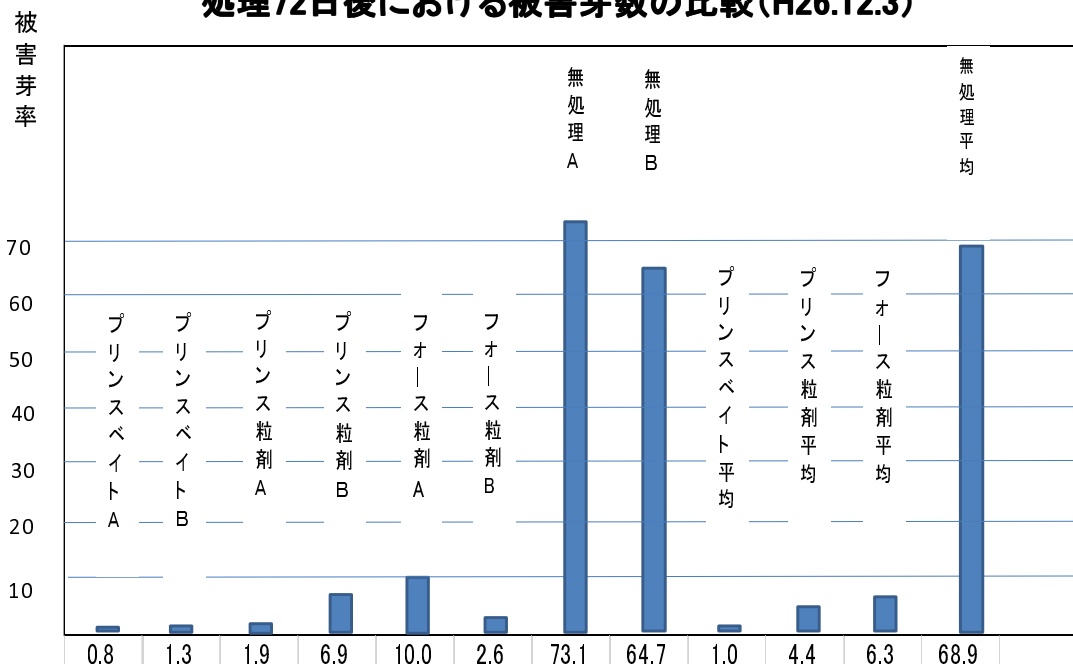
2.既往の成果

プリンスベイト剤はプリンス粒剤よりサトウキビのハリガネムシ類に対し高い防除効果がある。

※有効薬剤の探索 既存剤とプリンス粒剤の防除効果の比較

目的：プリンス粒剤と既存粒剤のハリガネムシ類に対する防除効果を比較し効率的な植付時処理剤使用に資すると共に、プリンス粒剤の登録、防除コストの低減を図る。

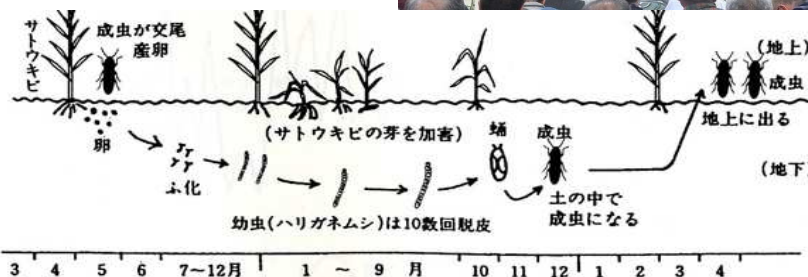
処理72日後における被害芽数の比較(H26.12.3)



新植時のプリンスベイト、見かけ上の効果は数年間、世代時間が2~3年です。

今期の操業計画

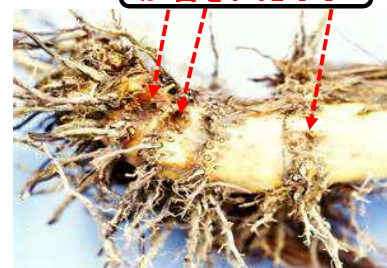
きび処理見込76,000 t



ハリガネムシ幼虫



加害された芽子



処理72日後の5m当り健全茎(萌芽)数

フォース粒剤25.2本、プリンス粒剤区25.5本、プリンスベイト区27.0本
無処理区5.8本。何れの薬剤処理区と無処理区と比較して優位に多い。

掘り取り後の被害芽数調査

フォース粒剤6.3%、プリンス粒剤4.4%、プリンスベイト剤1.0%
いずれの薬剤も無処理区の68.9%と比較して高い被害抑制効果である。

プリンスベイトと粒剤の比較

健全茎数、健全芽数ともにベイト剤が粒剤と比較して多い傾向であった。ベイト剤は餌成分として、植物質を含んでいることから、粒剤と同程度の防除効果であったが、餌成分を含まない粒剤でも防除効果が認められたことから、接触剤として効果は得られると考えられた。

今後の取り組み

粒剤はベイト剤と比較して価格が安く実用性について、今後も検討を積み重ねたい。

プリンス粒剤については登録申請中。
価格はベイトより安く次の夏植時には登録見込。

講演 「奄美地域におけるサトウキビの生育と安定多収栽培」

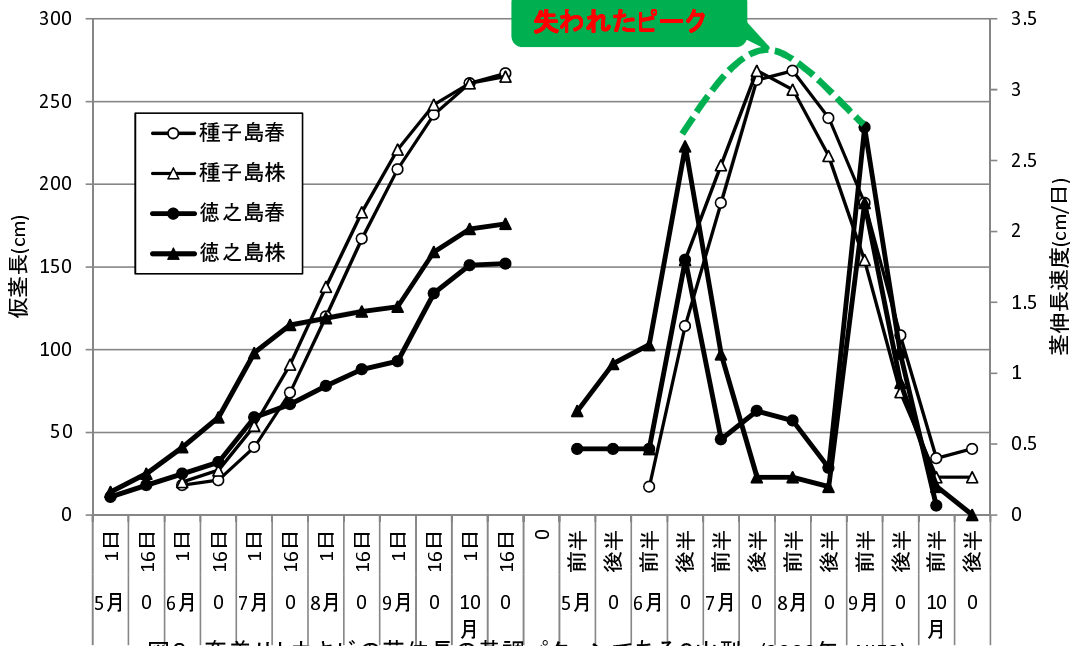


図3 奄美サトウキビの茎伸長の基調パターンである2山型 (2006年, NiF8)

徳之島支場

梅雨期間後期のキビは1日2～4cm伸びる。
しかし、梅雨後2週間の無降水で速度が低下するが
キビの**外観では判断できない**。大きな**損失**になる。

葉の**ロール現象** → 速度が**極小**になって**発生**。
かん水 → **茎伸長の高速度を維持可能にする**。
速度が**低下する前に始めたい**。
梅雨明け後 → **1週間で最初の水をあげたい**。
かん水目標 → **1週間目とする**。

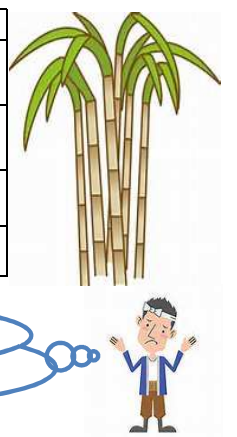
左表で梅雨明け後のかん水の重要度が解ります。



奨励品種について

鹿児島県の奨励品種→農林8号、農林17号、農林18号(熊毛地域)、農林22号、農林23号、農林27号、農林30号があります。
下記品種は本町で主に栽培されている品種とその特徴です。

品種の特性(長所)	短所
農林8号 ●早熟、高糖、多収で、さび病、黒穂病等の所有病害に対する抵抗性も強くバランスよく優れている。	・株出萌芽性がやや劣る ・気温が上がるまでは生長は鈍い
農林22号 ●発芽、萌芽、生育初期から茎伸長量が良く、株出萌芽も優れている。台風時にも折れにくい。	・株出栽培時に細茎化する傾向にある。
農林23号 ●発芽・萌芽が良く、茎伸長に優れている。干ばつに強い。早期高糖度品種	・台風時に折損茎が多い
農林30号 ●茎数が多く、早期高糖性で早期収穫に適す。	・台風時に折損茎が多い



さとうきびの主要な病害

わい化病



左：健全茎、右：罹病茎

左：罹病茎、右：健全茎

単収が上がらない畑は**罹病**している**可能性**がありま
す。一度、畑に出向き**観察**することも必要です。

罹病株は健全茎に比べ生育が劣り、新植より株出での被害が大きくなります。

成熟茎の地際部から3～6節の節部を切断して観察すると、罹病茎では橙黄色に変色した維管束が
小さな**斑点**として認められます。

外見上では見極めがつかないので、生育が劣っている圃場は罹病している可能性も疑われます。

黒穂病



罹病茎の先端から薄い灰色の膜に包まれた黒色の長い鞭状物を抽出し胞子を飛散させます。

胞子の**発芽適温は30℃前後**で、菌の侵入は殆ど芽から行われ、若い芽ほど侵入しやすいのが特徴です。

感染株は最後には**全身感染**するといわれ、罹病株から取った苗は、全て**罹病**しているものと考えらる。

春植えや新植では発病は少ないが、**株出し回数**が多くなるにつれて、**発病株が増え**、欠株増加の一因と
なります。

病害で一番恐いのが黒穂病です。

黒穂病の罹病株を他県から持ち込み、感染が拡大すると**重大な被害**を被り大変な事態になります。

鹿児島県以外からの株や苗の持ち込みは絶対に止めましょう。

原種苗の更新

罹病しない為にも定期的に原種苗に更新し、健全苗を植え付けすることが重要です。
春、夏の原種苗配布時期に忘れないで原種苗の申し込みを行いましょう。

トラッシュ低減について

トラッシュとは「夾雑物」と言い、目的とするもの以外の混雑物の意味です。

梢頭部、青葉、枯葉、ひげ根、雑草、土等です。

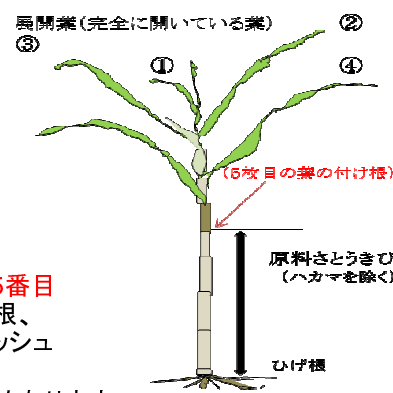
何故、トラッシュを少なくして出荷するのか？

「原料」とは砂糖を作る原料のことを言います。「原料さとうきび」とは最上部の**展開葉から数えて5番目の葉の付け根から下の「甘蔗茎**」を言います。原料甘蔗茎ですから、梢頭部、青葉、枯葉、ひげ、根、土などは含まれません。もちろん、腐食部分も含まれません。これら原料茎にならない部分をトラッシュと言います。売買契約ではこれ等を除いたさとうきびを売買することとなっています。

品質低下：青葉からでる「青汁」などが結晶化の邪魔をする。近年、異常なトラッシュに畑の雑草もあります。

トラッシュはキビではありませんから工場に砂糖は残らず、逆にバガスとなって糖分を持っていくだけで工場としては大迷惑な話なのです。
ハーベスタ収穫率が90%を占める中、トラッシュ低減対策が重要です。

ハーベスタの刈り取り速度をゆっくりすることでも、トラッシュ低減にもつながります。



お知らせ
一芽苗の配布について
生産者 5円
補助(生和) 5円
〃(町) 5円
計 15円
申込みの詳細は、後
日ご案内致します。

喜界町さとうきび

新鮮原料搬入について

新鮮原料の搬入についてはトラッシュと同様に工場歩留まりを大きく左右します。

農協の委託契約書には「36時間以内に刈り取りされた原料を搬入する。」となっています。

特にハーベスタ収穫茎は両方から水分が蒸発し劣化するため、歩留低下の大きな障害になります。2月を過ぎると、温度上昇に伴ないさとうきびの劣化が著しくなります。

割当を遵守し刈置きをしないようお願いいたします。



編集後記

今期のさとうきびは、気象災害も少なく良好な生育状況にあります。また、稀にしか出穂しない農林22、23号の出穂も多く見られます。さとうきびの専門員いわく、あまり出穂しない品種から穂が出ることは、「さとうきびが大変喜んでいる。」との説明を受けた。

今年は「奄美群島のキビ全体の生産量は44万トンを見込む」と新聞で報じられ6年ぶりの40万トン超えが期待される一方で、台風が来たから減収になった。では困るので「災害にあっても減収が少なく済むように防風対策をしましょう」と耳にする。5年、10年先を見据えて早期に防風林対策をする必要があります。